

山口県海外ビジネスサポートデスク 通信



12月号

海外ビジネス展開を支援する「山口県海外ビジネスサポートデスク」随時にご相談を受け付けております！

中小企業の皆様、海外展開に関するお悩みがございましたら、ぜひお気軽にサポートデスクまでご相談ください。現地の情報提供から販路先の開拓など、幅広いサポートメニューをご用意しています。

【サポートデスクメニュー】

海外展開に関する相談 各種調査・情報提供 セミナー開催 販路開拓・商談サポート支援 展示会出展支援

今月のデスク活動

■ 展示会のフォローアップ活動を積極的に進めております。

令和6年10月22日（火）から25日（金）にかけてシンガポールで開催された、アジア最大級の食品およびホスピタリティ業界に関する国際展示会「FHA-HoReCa2024」において、出展された山口県内企業様や来場されブースにて情報交換を行った現地企業様（計127社以上）を対象としたアフターフォローを中心に取り組んでおります。

■ 「山口県海外ビジネスサポートデスク」状況

11月には、3社の企業様にサービスをご利用いただきました。具体的には、情報提供を5件、現地商談アレンジによる販路開拓支援を1社に実施しております。以下に、一部事例を抜粋してご紹介いたします。

事例 1.

[エネルギー事業、カーライフ事業、食品事業、陸海運輸事業など幅広い事業を展開する企業様のご利用について](#)

⇒利用メニュー：事業展開相談、各種情報収集、販路開拓

食品の海外輸出に関するご相談をいただきました。今後の事業展開に向けて、対象候補国・地域の「加工食品のトレンド」に焦点を当てた情報を提供しました。同時に、対応国・地域での商談マッチングのサポートも進行中です。12月中には現地企業との商談を予定しています。

事例 2.

制服や保冷ボックスなどの製造・販売を手掛ける企業様のご利用について

⇒利用メニュー：各種情報収集、販路開拓(海外パートナー候補の情報等)

海外の保育施設から発注を受け、園児服を出荷されています。販路拡大の一環として、園児服の販売をビジネスとして継続的に展開していただける現地パートナーを求め、ご相談をいただきました。デスクでは、まず保育施設向け製品を取り扱う企業の調査を行い、その後、製品販売ビジネスを共同展開できる適切なパートナーのご提案を進める予定です。

事例 3.

食品の製造・販売企業様のご利用について

⇒利用メニュー：販路開拓

年末に海外で予定されているイベントにあわせ、現地サプライヤーとの商談マッチングを希望され、ご相談をいただきました。一部、過去に取引実績のある企業も含まれているため、状況を確認しながら新規商談先のリストアップ、アポイント調整、マッチング対応を進めております。また、現地渡航時には、同行サポートの手配も進行中です。

■「食品輸出関連」セミナー開催のお知らせ

このたび、食品輸出に関するセミナーをオンラインで開催することが決定いたしました。山口県海外サポートビジネスデスクより現地情報を講演致します。輸出の現状や最新トレンドに関する情報を学べる機会ですので、ぜひご参加ください。

お申し込みは「**公益財団法人 やまぐち産業振興財団**」のホームページをご確認ください。

【日 時】：12月23日(月) 13:30~16:00(予定)

【開催方法】：オンライン

【内 容】：

- 第一部：シンガポールの状況と今後の販路開拓
講師：NIHON ASSIST SINGAPORE PTE.LTD. Director 関 泰二氏
- 第二部：台湾への食品輸出：最新のマーケット事情・バイヤー動向を現地から
講師：桔想国際有限公司 COO 網本 友加氏
- 参加対象：山口県内中小企業

(文責：株式会社日本アシスト 張)

現地からお届け！ 最旬情報 -ベトナム編-

今回は、活気あふれる東南アジアの注目国、**ベトナム**に焦点を当てて、現地の経済や文化、そして最近のトレンドをご紹介します！

最近のベトナムといえば、驚異的な経済成長が話題です。

鉄工業や製造業の発展、デジタル化の進展、そして台風被害の影響など、さまざまなトピックが交錯しています。

一方で、日本文化も現地ですますます人気を集めており、日本食やアニメが若者たちの心を掴んでいます。現地に直接足を運び、肌で感じた活気と熱気、そして市場の可能性について、リアルな視点を交えてお届けしていきます！ベトナムの“今”を、ぜひ一緒に掘り下げてみませんか？

それでは早速、見ていきましょう！

ベトナムの経済状況

ベトナムなどの東南アジア諸国の経済発展は、依然成長の気配を見せている。10月6日にベトナム統計総局（GSO）は2024年度第3半期（7-9月）の実質GDP成長率は前年同期比7.4%と発表し、第2半期（4-6月）に続き、更に伸び率が加速しました。産業別で見ると、鉄工業は9.59%増、製造業は11.41%増と高い成長率を維持しており、GDPの約4割を占めるサービス業も7.51%増と順調な成長率をみせています。一方、鉱業は7.09%減と低迷しました。

市場予想は同6.10%増とされており、その予想を大きく上回った今回のGSOの発表は、多くのアナリストにとって、一種のサプライズであったと言えるでしょう。鉱工業の改善が成長率上昇に大きな一役を担っており、世界的な利上げで、落ち込んでいた輸出量が回復した点も市場予想を大きく上回った要因であると考えられています。反対に、やや抑え目な成長率予想をされた大きな要因として、9月にベトナム北部を襲った台風11号（国際名：ヤギ）を挙げることができます。実際に、農林水産業の成長率は2.58%と、北部の洪水の甚大な被害により、成長率が大きく低下しました。

英BBCの報道によると、9月11日までに少なくとも179人の死亡がベトナム内で確認され、首都ハノイでは洪水が発生し、住民数千人が避難しました。この台風11号は過去30年間でベトナムに影響を与えた台風の中で、最大規模の被害をもたらす、ベトナム上陸前には中国とフィリピンにおいても、合計20人以上の死者を出す規模の台風でした。

Eコマースの拡大

ベトナムのEコマース（電子商取引）は急激な成長をみせています。Metric.vnの調査によると、2023年5月から2024年6月までの取引額は約48%増加しました。また、この成長率は、同国内の小売市場の増加率（9.6%）を大きく超え、対面での販売に比べて、Eコマースが急成長していることがわかります。人気な商品カテゴリーとしては、美容などを挙げることができます。また、オンライン販売の拡大とインターネットの普及につれ、キャッシュレス決済をはじめとした生活のデジタル化も成長をみせています。このようなトレンドや社会の流れは、ベトナムだけでなくフィリピンやインドネシアなどの東南アジア諸国の共通点であると言えるでしょう。これらのインターネット拡大の波は、今後もしばらく続く予想され、SNSを用いたマーケティングの実施やオンライン購入に関連する物流サービスの整備は、今後ベトナムの市場拡大において必要不可欠の要素であると考えられます。ASEANなどの近年急激な経済成長を見せる国々に共通するこれらのトレンドは、ビジネス面での大きな可能性を有しており、今後更なる成長を見せる分野であると言えるでしょう。

ベトナムにおける日本という国

ベトナムにも、アニメをはじめとした多くの日本文化が享受され、人気コンテンツの一つであると言えます。先述したように、ベトナム国内ではインターネットが近年急速に普及し、様々な動画ストリーミングサービスを利用することが可能になりました。そのようなオンラインサービスの急成長と、コロナ禍のロックダウンの時期が偶然にも一致したこの数年間は、アニメをはじめとした日本文化が急激に広まりました。また、アニメだけでなく、日本食も高い人気を有しています。ベトナムの都市部には多くの日本食料理店が存在します。現地企業が経営しているベトナム人の口に合うようにアレンジされた日本食を提供するものから、日系企業が経営する本格的な日本食を提供するものまで様々です。以前までは、日本食といえば寿司などのやや高価なものというイメージが一般的でしたが、すき家や一風堂などがベトナムに進出し、安価な値段で日本食を楽しむことができるようになりました。そういった日本食のカジュアル化により、日本食を体験するハードルが下がり、日本食レストランの売り上げや日本食文化自体の拡大が近年急激に進んでいると感じます。日本への観光客も近年大きく増加しています。2023年の訪日ベトナム人観光客は約57万人と、過去最多の数字を記録しました。このトレンドは、もちろん円安の影響もありますが、日本文化の一般化と人気の拡大も要因の1つであると考えています。国別の訪日外国人観光客数も10位に位置し、インバウンド向けの事業に対する影響力は、無視することができないと言えるでしょう。

最後に…

今年の9月に某日本企業の海外研修の講師として約2週間ベトナムに滞在しておりました。到着した日がちょうど9月2日のベトナムの独立記念日でした。空港からタクシーでホーチミンの中心地に向かう途中には、たくさんのベトナム国旗と建国の父であるホー・チミン氏の写真があちらこちらに飾られていました。街には多くの若者が国旗をつけたバイクにまたがり、大きな音を立てて街中を走り回っていました。夜にはサイゴン川の辺りから盛大な花火が打ち上げられており、この国の活気を肌で感じられる夜でした。来るたびに変貌を遂げる街並みや、生き活きとした人々の生活を見にすると、閉塞感漂う日本と比較すると、肌感覚で「経済が成長している」ということが実感します。現在人口1億人を越えるベトナム市場ですが、進出のご相談も増えていきます。山口県企業の市場参入のチャンスも今後は増えていくと予測され、引き続き皆様のサポートをしていきたいと思っております。



(文責：NIHON ASSIST SINGAPORE PTE.LTD. Managing Director 関 泰二)